

TOPICS 1
トピックス

市財政情報発信キャラクター「いばら騎士」と
平成28年度決算の概要を見よう

問財政課 ☎ 620・1612



平成28年度決算が9月市議会で認定されたね。昨年度も厳しい財政状況の中、「財政の健全性の確保」に努めるとともに、「市民サービスの充実」を図ったんだ。

決算って、1会計年度(4月～翌3月)の税金などをどう使ったかをまとめたものだよな!

主に税金で福祉、教育などの市民サービスを行うメインのお財布の「一般会計(歳出に係る市民一人当たりの金額の内訳は下枠参照)」と、保険料などの特定の収入で、特定の事業を行うお財布の「特別会計」に分類されるねん。

そのとおり。昨年度も全会計で黒字になったよ(表1参照)。一方で、収支が黒字というだけでは財政状況が良いか判断できないから、「財政健全化判断比率」という指標があるんだ(表2参照)。信号に例えると、「早期健全化基準」を超えると黄信号、「財政再生基準」を超えると赤信号、つまり財政は危険ってということなんだよ。

茨木市は全項目で青信号かぁ。健全なのね!

そうだね。それにグラフ1のとおり、近年増加傾向だった市債(借金)の残高を減らすこともできたんだ。次にグラフ2を見て。これは「経常収支比率」を示したグラフだよ。財政の余裕度を表す数値で、低いほうが財政に余裕があるんだ。

茨木市って、府内平均よりも低い状態を保っているんだね。それじゃあ、この先もこのままで安心だね。

そうじゃないよ。健全な状態を保っているのは、これまで市民サービスを充実(ビルド)するために、既存サービスを見直す(スクラップ)「ビルド&スクラップ」に積極的に取り組むことで「やりくり」してきたからなんだよ。だからこの健全化の取組みは継続していかなくちゃね。

なるほど。立ち止まってはられないってことね!

そのとおり!これからも「次なる茨木」に向けて、健全財政を基本に「今」と「将来」に対応する施策を進めて、より良いまちづくりに取り組もう!!

表1 一般・特別会計別決算(億円)

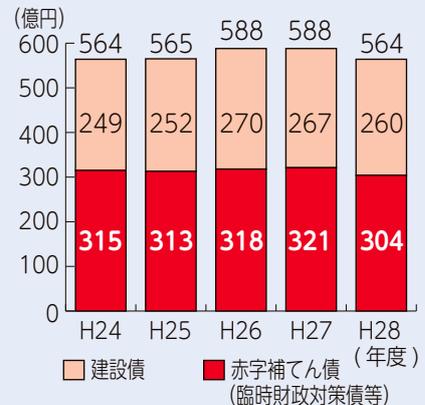
会計	一般会計	特別会計			
		財産区	国民健康保険事業	後期高齢者医療事業	介護保険事業
歳入	865.4	53.0	328.7	35.9	165.3
歳出	842.0	1.5	326.4	34.6	160.9
繰越	14.3				
差引	9.1	51.5	2.3	1.3	4.4

差引=歳入-歳出-繰越(繰越=翌年度に繰り越す財源)

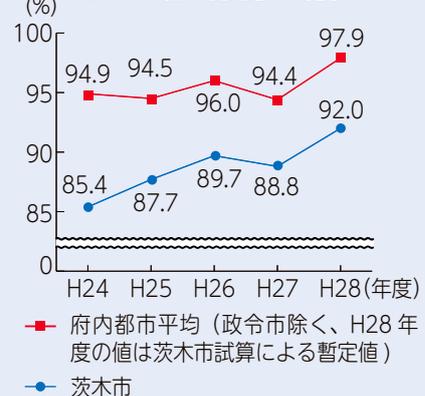
表2 昨年度決算に基づく
財政健全化判断比率(%)

	比率の説明	茨木市	早期健全化基準	財政再生基準
実質赤字比率	一般会計の赤字の割合	赤字なし	11.25	20.0
連結実質赤字比率	一般会計、特別会計等の全ての会計の赤字の割合	赤字なし	16.25	30.0
実質公債費比率	年間の借金返済額の割合(比率は3か年の平均)	-3.4	25.0	35.0
将来負担比率	将来負担が見込まれる債務の割合	-43.5	350.0	
資金不足比率	公営企業ごとの資金不足額が事業規模(料金収入規模)に占める割合	不足なし	20.0	

グラフ1 市債(借金)残高の推移



グラフ2 経常収支比率の推移



<平成28年度歳出決算額>
市民一人当たりの金額

- ①福祉の充実 139,900円
- ②教育の推進 36,100円
- ③道路・公園等の整備 35,800円
- ④ごみの処理や医療の充実など 24,200円
- ⑤庁舎管理、戸籍・住民票の管理など 21,000円
- ⑥借金の返済(借換債を除く) 17,200円
- ⑦その他 24,100円

※歳出決算総額を市の人口で割った金額の内訳

